

証券コード 6768
東京証券取引所 プライム上場

株式会社タムラ製作所

2023年3月期 第2四半期決算概要

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

2022年 11月 9日

TAMURA
Your One and Only Company

© 2022 TAMURA CORPORATION

本日のご説明

1. 2023年3月期 第2四半期決算概要
2. 2023年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画に基づく施策
4. まとめ

【付録】参考資料



代表取締役社長
浅田 昌弘

タムラ製作所、社長の浅田でございます。

本日は、2023年3月期第2四半期の決算概要、2023年3月期通期の業績予想についてご説明いたします。

また、今年度よりスタートしました第13次中期経営計画に基づく取り組みについてもご紹介いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

1. 2023年3月期 第2四半期決算概要

2023年3月期 第2四半期 損益計算書

- ◆ 主要顧客の堅調な需要、製品価格改定努力に加え、生産効率改善などにより増収・増益
- ◆ 四半期純利益は、営業利益改善に加え繰延税金資産の計上などにより前期比・予想比大幅増加
- ◆ 第13次中期経営計画初年度として順調な滑り出し

[百万円]								
22.3期2Q			23.3期2Q			23.3期2Q		
	実績	構成比	前年同期比	実績	構成比	前年同期比	'22/5予想	構成比
売上高	41,139	100.0%	+23.5%	49,446	100.0%	+20.2%	45,600	100.0%
売上原価	30,851	75.0%	+30.4%	36,781	74.4%	+19.2%	-	-
販管費	10,005	24.3%	+6.9%	11,016	22.3%	+10.1%	-	-
営業利益	282	0.7%	▲8.7%	1,648	3.3%	+482.8%	800	1.8%
経常利益	652	1.6%	+42.5%	1,313	2.7%	+101.2%	800	1.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲55	-	-	1,250	2.5%	-	200	0.4%
為替 (円/米ドル)	期中平均	109.01	+2.18pt	131.04	+22.03pt	営業利益増、繰延税金資産 計上(約2.7億円)など		
	期末	111.92	+6.12pt	144.81	+32.89pt			

© 2022 TAMURA CORPORATION

注： 期初予想は2022年5月11日に公表

4

まず2023年3月期第2四半期の業績についてご説明いたします。

今期は、当社の主要顧客における需要が堅調に推移いたしました。

併せて、素材価格高騰や為替変動に伴う製品価格の改定、工場の自動化推進による生産効率の改善、拠点再編による物流の見直しなども推進いたしました。

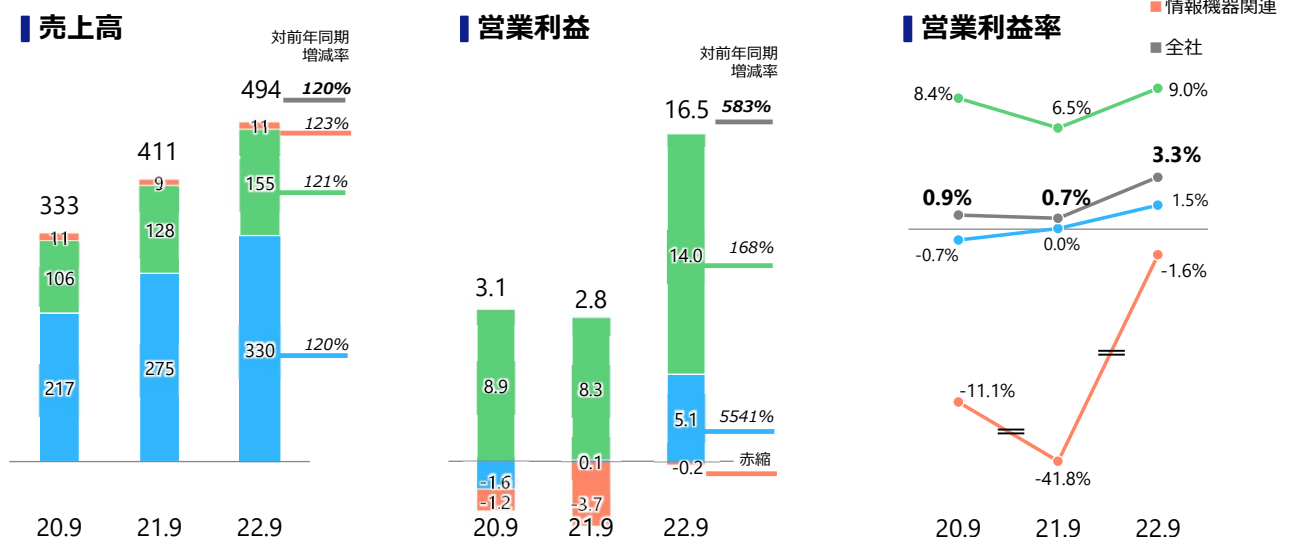
その結果、売上高は494億円の増収となり、営業利益は16億円と前年同期比約6倍の増益となりました。

四半期純利益は、繰延税金資産2.7億円の計上などで前年同期を大きく上回り、12億5千万円となりました。

第2四半期は総じて堅調な決算となっており、4月よりスタートしました第13次中期経営計画の初年度として、順調な滑り出しとなりました。

第2四半期 事業部門別売上高・営業利益

◆ 電子部品および電子化学実装は大幅に増収・増益。情報機器も赤字縮小



© 2022 TAMURA CORPORATION

注: 連結消去（主に全社未来開発費）により、営業利益の全社の値と、事業部門の合計が一致しません。

5

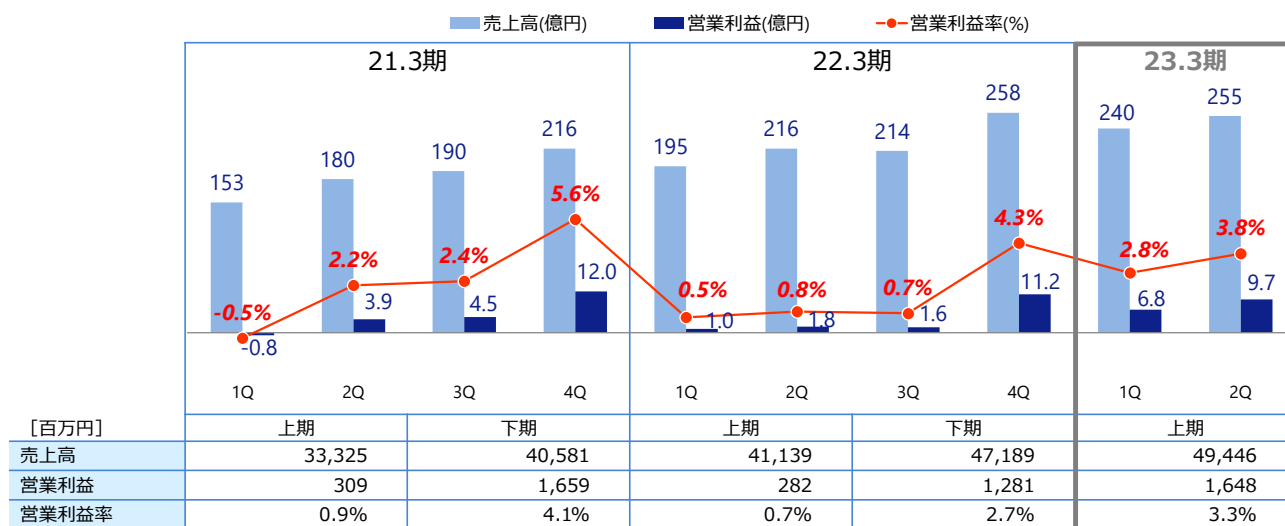
スライド5では、事業部門別の業績をお示します。

電子部品事業、電子化学実装事業、情報機器事業のすべてで、増収となりました。利益面でも、電子部品事業、電子化学実装事業は大幅増益となり、情報機器事業は、赤字幅を大きく縮小しました。

その結果、連結営業利益率は3.3%と、前年同期に比べ上昇しました。

第2四半期 売上高・営業利益（四半期推移）

- ◆ 1Qに続き、2Qも四半期売上高が過去最高を記録
- ◆ 2Qは一部事業で上海ロックダウンの影響を受けたものの、全体では前期比増収増益基調を継続



© 2022 TAMURA CORPORATION

6

続いて、四半期別の売上高・営業利益についてご説明します。

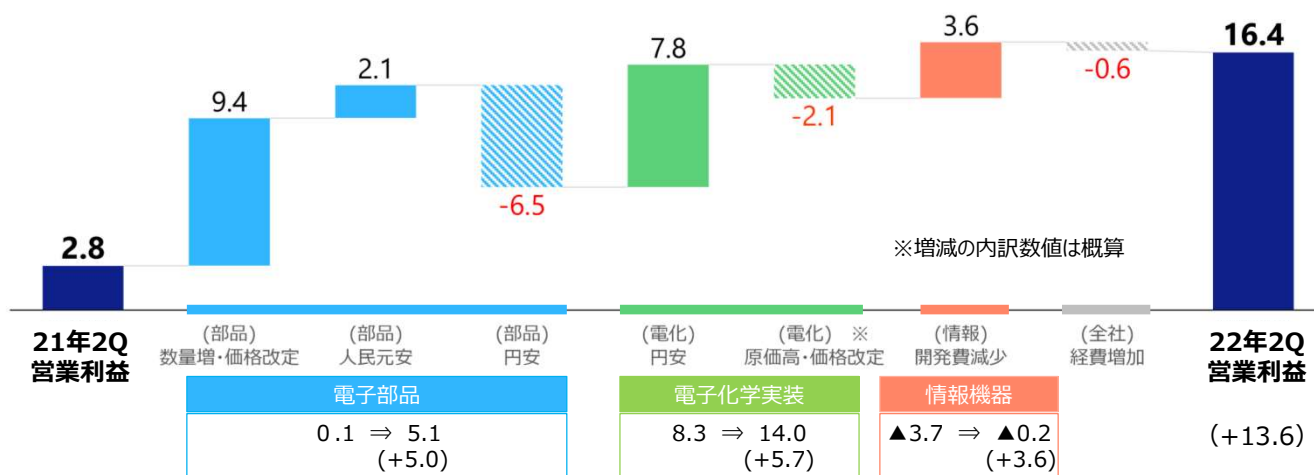
第2四半期は、売上高255億円と、第1四半期に続き、過去最高の四半期売上高を記録いたしました。

一部事業では、上海ロックダウンによるマイナスの影響がございましたが、営業利益は9.7億円、営業利益率は3.8%と、全体では増収・増益基調を継続しております。

第2四半期 営業利益 対前年同期増減（為替要因を中心とした分析）

◆ 円安は電子部品にマイナス、電子化学実装にプラスに影響したが、全社への影響は軽微

[億円]



※ 電子化学実装では、ソルダーペーストの主材料である錫価格が昨年3月から本年5月まで急上昇。価格改定により収益性は改善方向にあるが戻し切れていない。

© 2022 TAMURA CORPORATION

7

スライド7では、為替要因を中心とした営業利益の前年同期比分析をご説明します。

電子部品事業では海外生産・輸入販売が多いため、円安が利益面でマイナスに働きます。

しかし、中国における人民元安はプラスに働くため、第2四半期の利益を押し上げ、マイナス影響を一部相殺しました。

更に、電子化学実装事業では、国内生産・輸出販売が多いため、円安がプラスに働きます。

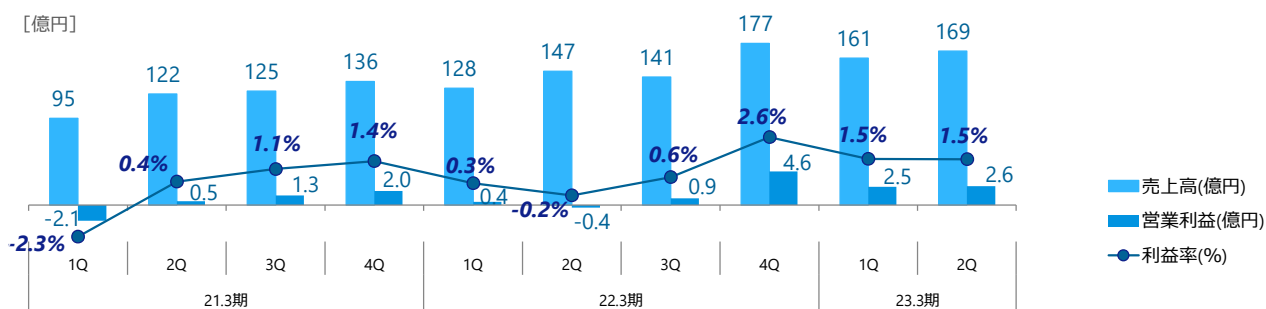
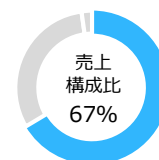
その結果、為替影響は相殺され、グループトータルでは為替影響は軽微となりました。

売上増加や価格改定効果に加え、情報機器事業において開発完了に伴い開発費支出が減少したことなどにより、第2四半期営業利益は、前年同期比プラス13.6億円となりました。

【事業部門別】電子部品関連事業 実績

- ◆ 好調な売上が継続。製品価格改定努力や生産改善により収益性も改善
- ◆ 上海ロックダウンや円安がマイナス要因となるも、人民元安がプラス寄与し、2Qも1Q並みの利益を確保

[百万円]	22.3期2Q		23.3期2Q		23.3期2Q
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	期初予想
売上高	27,470	+26.7%	32,978	+20.0%	30,100
営業利益	9	-	507	約55倍	100
営業利益率	0.0%	+0.8pt	1.5%	+1.5pt	0.3%



© 2022 TAMURA CORPORATION

8

スライド8以降では、事業別の業績について説明してまいります。

電子部品事業では、好調な売り上げ、価格改定、生産性の改善などにより収益性が改善し、売上高329億円の増収となりました。

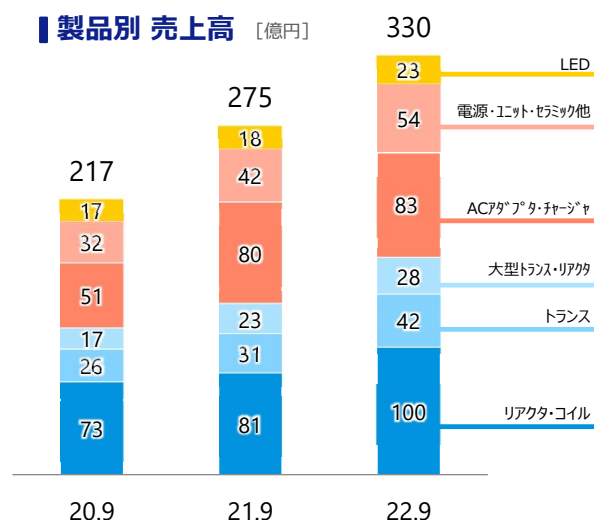
利益面でも、営業利益5億円、営業利益率1.5%の収益が改善しました。

第2四半期には、上海ロックダウンや大幅な円安といったマイナス影響を受けましたが、第1四半期並みの利益を維持できました。

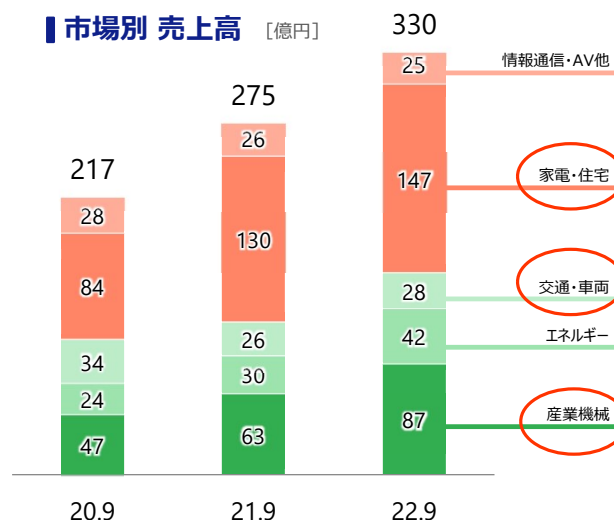
【事業部門別】電子部品関連事業 製品別・市場別売上実績

- ◆ 産業機械向けトランス・リアクタ、エアコン向けリアクタ、電動工具向けチャージャが増収をけん引
- ◆ 車載用リアクタは、半導体不足による顧客の減産が響き伸び悩む
- ◆ 自動販売機用LEDボタンは、顧客の設備投資回復でコロナ前レベルに回復

■ 製品別 売上高 [億円]



■ 市場別 売上高 [億円]



© 2022 TAMURA CORPORATION

注：2021年9月期以降、収益認識基準による会計基準等の適用により、車載事業（交通・車両／リアクタ・コイル）で売上高が約10億円程度減少しています。

9

電子部品事業の製品別・市場別売り上げ実績をご説明します。

第1四半期に続き、産業機械向けのトランス・リアクタ、エアコン向けのリアクタ、電動工具向けのチャージャなどの売り上げが、堅調に推移いたしました。
また、再生エネルギー関連市場向け製品が伸長し、自販機用LEDボタンも顧客の設備投資が回復に向いました。

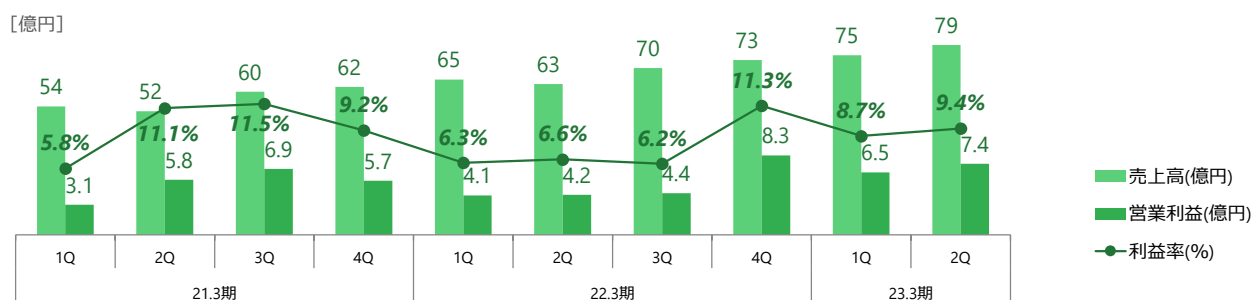
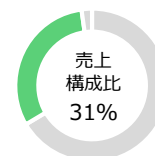
その結果、産業機械市場87億円、エネルギー市場42億円、家電・住宅市場147億円と増収をけん引いたしました。

一方、交通・車両市場は、半導体不足による顧客の減産などで車載用リアクタがやや低調だったことから、売上高28億円と横ばいとなりました。

【事業部門別】電子化学実装関連事業 実績

◆ 堅調なソルダーペースト需要、原材料コストの販売価格への反映、円安等により増収増益基調が継続

[百万円]	22.3期2Q		23.3期2Q		23.3期2Q 期初予想
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	
売上高	12,819	+21.5%	15,472	+20.7%	14,600
営業利益	831	▲6.6%	1,397	+68.1%	1,100
営業利益率	6.5%	▲1.9pt	9.0%	+2.5pt	7.5%



© 2022 TAMURA CORPORATION

10

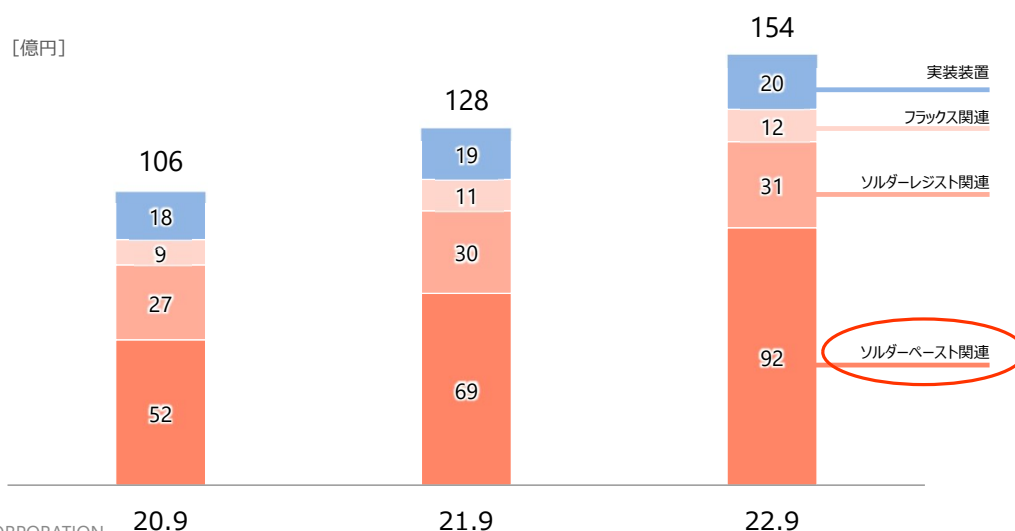
続いて、電子化学実装事業の業績です。

売上高は154億円と増収、営業利益は13億円と前年同期比プラス68.1%の増益となりました。

堅調な顧客需要や素材価格の販売価格への反映が進んだこと、また、円安の効果などにより、増収・増益基調が継続しました。

【事業部門別】電子化学実装関連事業 製品別売上実績

- ◆ ソルダーペーストの需要堅調で、中国のEV向けでも健闘。錫価格高騰に伴う価格改定努力、円安もあり増収
- ◆ スマートフォン向けソルダーレジストは、計画レベルで推移
- ◆ 実装装置は日系車載メーカー向けを中心に回復基調継続。自動車の電動化による需要本格化は今後



11

電子化学実装事業の製品別売上をご説明します。

ソルダーペーストは、92億円と大幅な増収となりました。
顧客の需要が堅調だったことに加え、中国EVなどでの採用も進みました。
また、ソルダーペーストの主原料である錫価格の大幅な上昇を踏まえた価格改定努力や円安影響も、売上の増加要因となりました。

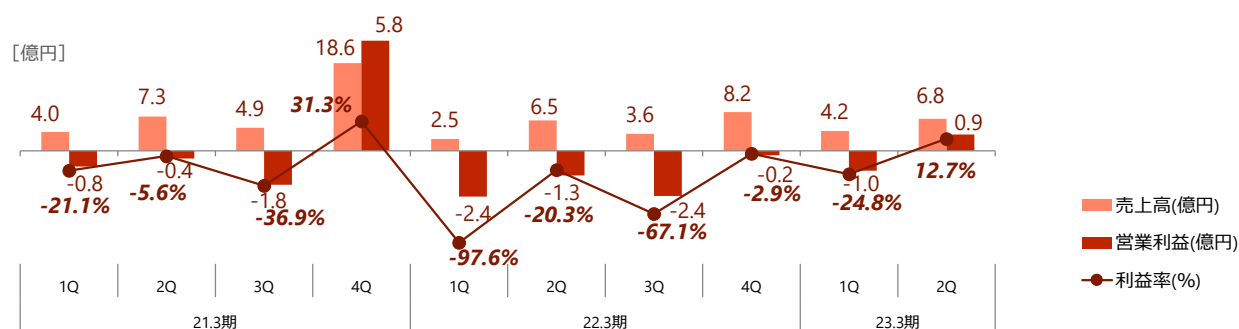
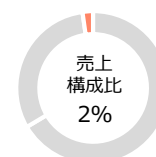
ソルダーレジストは、メイン顧客であるスマートフォン向けが低調だったものの、シェアアップによりほぼ計画どおりの売上を確保し、前年同期並みの売上を維持しました。

実装装置は、日系車載メーカー向けを中心とした販売が回復基調で推移しました。

【事業部門別】情報機器関連事業 実績

◆ 次世代音声卓開発費用支出が概ね完了したこともあり、前期比収益が大幅改善

[百万円]	22.3期2Q		23.3期2Q		23.3期2Q
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	期初予想
売上高	895	▲20.4%	1,102	+23.1%	900
営業利益	▲374	-	▲18	-	▲100
営業利益率	▲41.8%	▲30.7pt	▲1.6%	+40.1pt	▲11.1%



© 2022 TAMURA CORPORATION

12

情報機器事業の業績をご説明します。

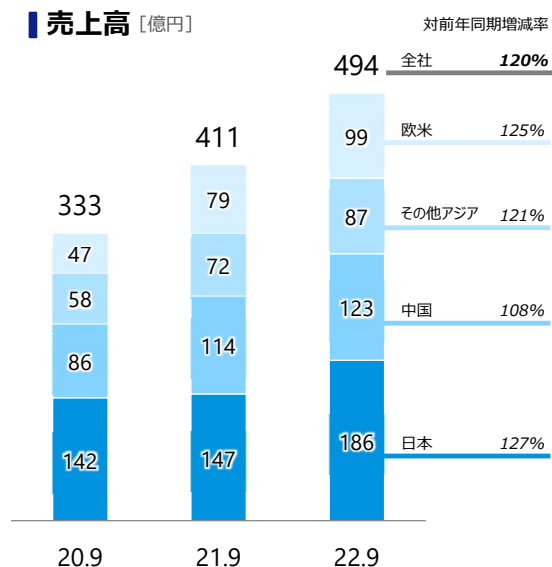
次世代音声卓の開発費用支出が概ね完了したこともあり、前年同期比および期初予想から収益が大幅に完全しております。

その結果、売上高11億円と増収となり、営業損失は18百万円にとどまりました。

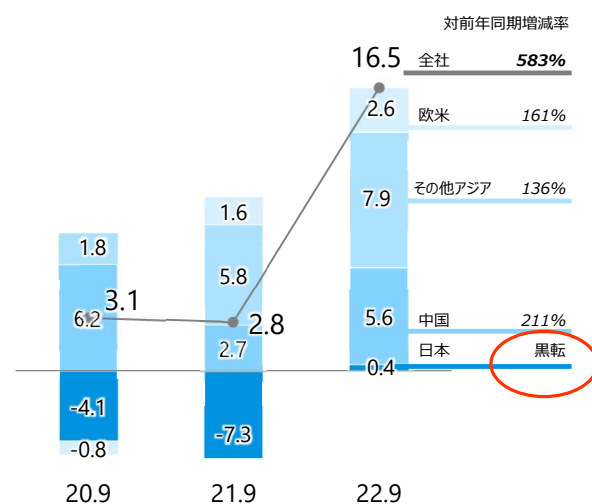
第2四半期 地域別売上高・営業利益

- ◆ 為替効果もあり、全地域で増収。営業利益も改善
- ◆ 日本は輸出品の円安効果や国内事業の回復で黒字転換

売上高 [億円]



営業利益 [億円]



© 2022 TAMURA CORPORATION

注: 連結消去 (主に全社未来開発費) を日本に含めて表示しています。

13

スライド13は、地域別の業績です。

為替効果もあり、全地域で増収となり、営業利益も改善いたしました。

日本は、輸出品の円安効果や国内事業のコロナ影響からの立ち直りもあり、わずかながら黒字化いたしました。

2022年9月末 貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書

- ◆ 長納期受注、部材確保、為替換算影響等により棚卸資産が増加。設備投資等では有形固定資産も増加
- ◆ 資産見直し・キャッシュ創出に注力中

[億円]

	22.3末	22.9末	増減額
現金・預金	137	135	▲2
売上債権	225	257	32
棚卸資産	221	273	52
有形固定資産	304	319	15
資産合計	1,041	1,144	104
仕入債務	133	147	14
有利子負債	312	358	46
純資産	502	543	41
負債・純資産合計	1,041	1,144	104

	21.9	22.9	増減額
営業CF	▲27	▲10	17
投資CF	▲22	▲12	10
財務CF	23	9	▲14

	22.3末	22.9末	増減
自己資本比率	48.0%	47.2%	▲0.8%

スライド14では、貸借対照表項目についてご説明します。

資産は、棚卸資産が前期末より52億円増加し、273億円となりました。
増加の主な要因は、顧客からの長納期受注への対応、入手が難しい部材の先行確保、海外子会社資産の為替換算影響などです。

有形固定資産は、過年度に実施した車載関連事業への設備投資や中国生産拠点の再編などで前期末より15億円増加し、319億円となりました。

資産効率の改善を目指し、現在資産の見直しおよびキャッシュの創出に注力しております。

2. 2023年3月期 通期業績予想

続いて、2023年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

2023年3月期 通期業績予想

- ◆ 需要の一時的減速など不透明な事業環境を想定
- ◆ 引き続き価格改定の浸透や生産改善を推進し、計画達成を目指す

[百万円]

	2022.3期			2023.3期 (2022年9月26日公表)			2023.3期	
	実績	構成比	前期比	予想	構成比	前期比	22/5 予想	構成比
売上高	88,328	100.0%	+19.5%	105,000	100.0%	+18.9%	94,000	100.0%
営業利益	1,564	1.8%	▲20.5%	4,500	4.3%	+187.6%	3,000	3.2%
経常利益	2,001	2.3%	▲16.1%	3,900	3.7%	+94.9%	3,000	3.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲84	-	赤転	2,700	2.6%	黒転	1,800	1.9%
為替 (円/米ドル)	期中平均	111.16	+5.73	135.00		+23.84	120.00	
	期末	122.39	+11.68	135.00		+12.61	120.00	
1株当たり配当	10.00円		+2.00円	10.00円		+0.00円	10.00円	
配当性向	-		-	32.6%		-	45.6%	
ROE	▲0.2%		▲1.4pt	5.1%		+5.3pt	3.6%	

© 2022 TAMURA CORPORATION

16

まず、連結通期業績予想についてご説明いたします。

通期は、9月26日に公表した計画の達成に努めてまいります。

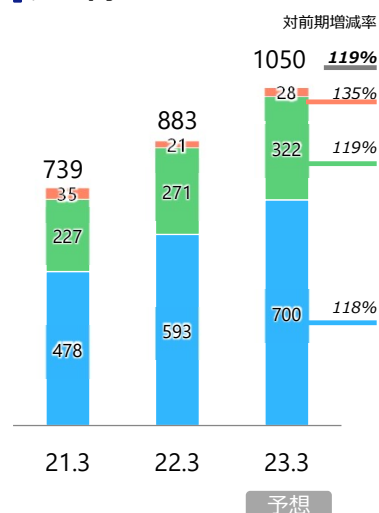
売上高は1050億円と前期比19%増、営業利益は45億円と前期比の約3倍、当期純利益は27億円を見込んでおります。

下期では、需要の一時的減速など不透明で向かい風の事業環境が想定されます。しかし、引き続き堅調な売上を期待できる分野があり、加えて価格改定の浸透や生産改善の推進により、計画達成を目指してまいります。

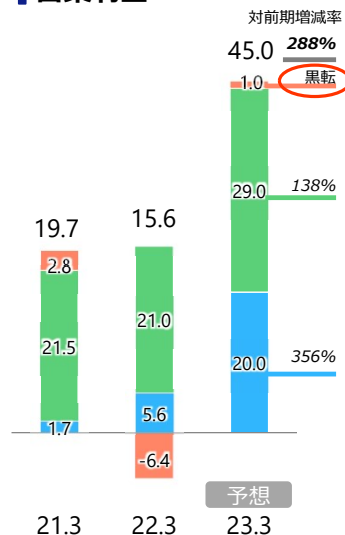
2023年3月期 事業部門別通期業績予想

◆ 電子部品および電子化学実装は増収・増益基調を継続。情報機器は黒字転換

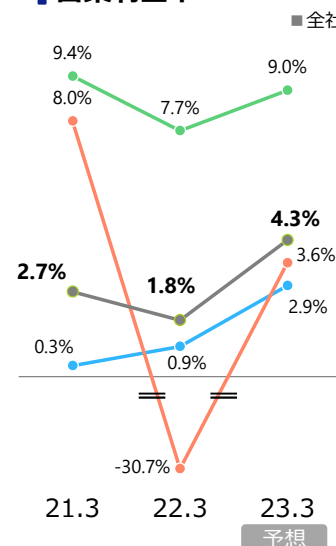
売上高



営業利益



営業利益率



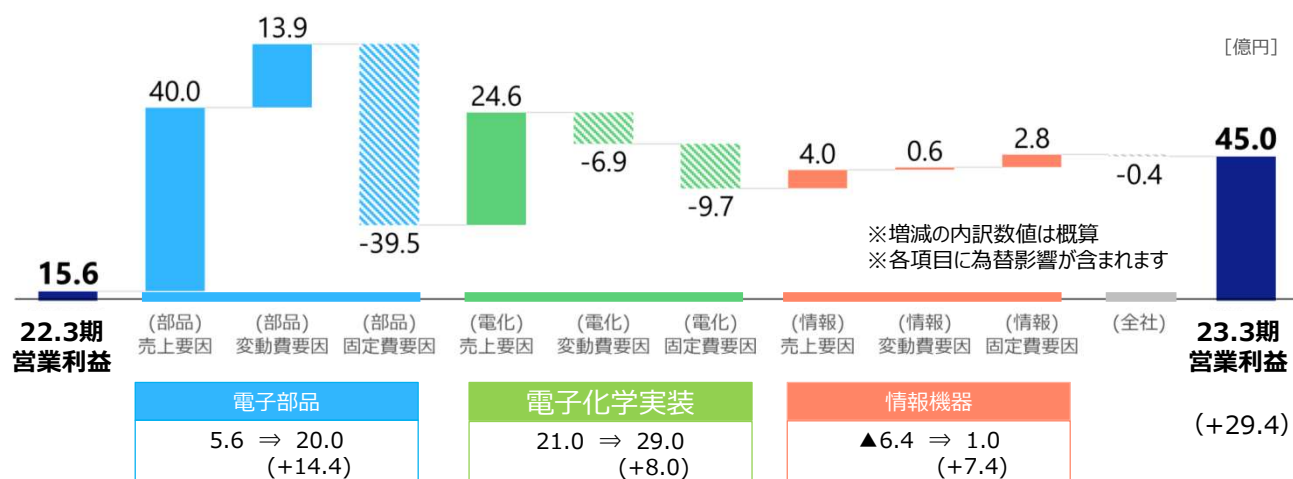
スライド17は事業部門別の売上高および営業利益予想となります。

電子部品事業、電子化学実装事業ともに増収・増益基調の継続を見込んでおります。

情報機器事業は黒字転換の計画です。

2023年3月期 通期営業利益 対前年増減 (売上・固定費・変動費要因による分析)

- ◆ 電子部品は価格改定が浸透して変動費改善に寄与するも、電子化学は改善に余地を残す
- ◆ 前期に実施した車載関連事業や中国拠点再編に伴う設備投資で、電子部品の固定費（減価償却費）増加
- ◆ 情報機器は次世代音声卓の開発が概ね完了して支出が減少



スライド18は、通期営業利益予想の前期比分析です。

全事業において、売上要因を中心として29.4億円の改善を想定しています。

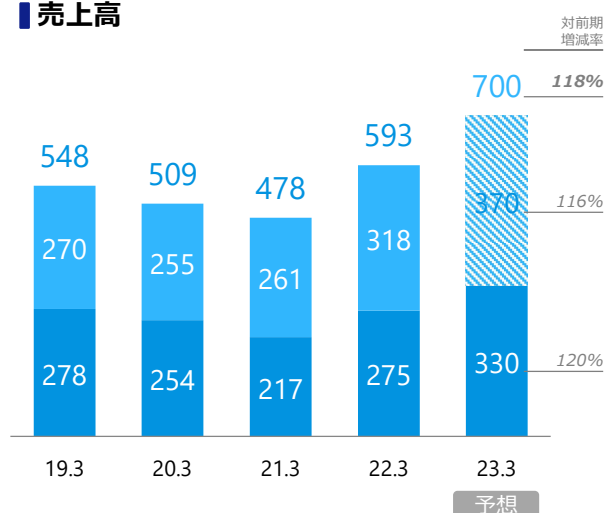
変動費要因では、電子部品事業は、価格改定の浸透が変動費改善に寄与する一方、電子化学実装事業では、改善余地を残しております。

固定費要因では、電子部品事業において、前期に実施した車載関連事業および中国生産拠点の再編に伴う設備投資などにより、減価償却費の増加を見込んでおります。

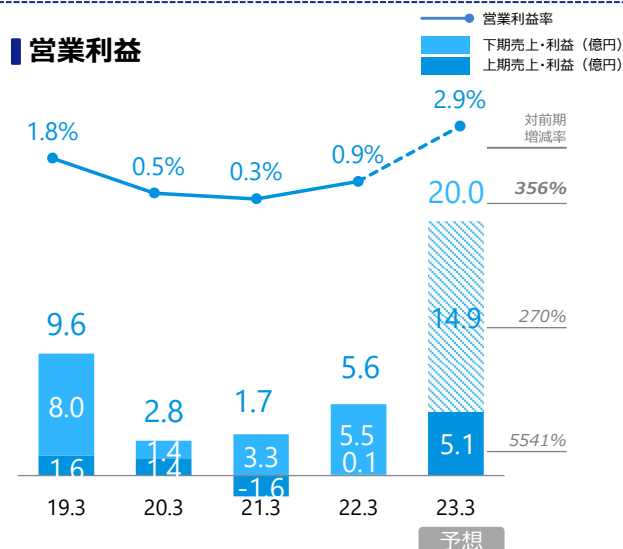
2023年3月期 電子部品関連事業 通期業績予想

- ◆ 下期は、海外を中心に上海ロックダウンなどのマイナス影響の低減と季節変動による増収を想定
- ◆ 引き続き市場連動による価格改定の浸透や、生産改善により増益を見込む

売上高



営業利益



スライド19以降は、各事業の通期業績予想となります。

まず、電子部品事業の業績予想です。

売上は、一部上期より停滞が見込まれる分野がある一方、季節要因などにより引き続き堅調な売上が期待できる分野もございます。

価格改定も加味しまして、下期の売上金額は、上期以上に増加するものと予想しております。

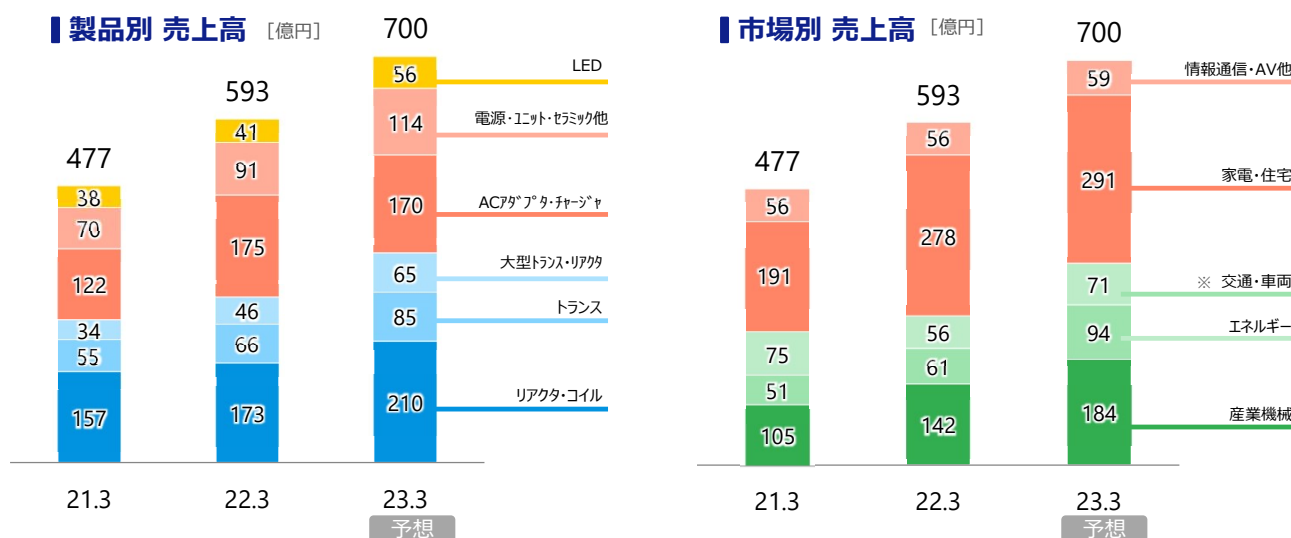
利益面では、上海ロックダウンなどのマイナス影響が低減いたします。

更に、市場連動による価格改定の更なる浸透や生産改善によって、円安デメリットを抑え込み、増益を図ってまいります。

そのため、下期の営業利益は、約15億円と前年同期から大幅増加、通期では20億円を見込んでおります。

2023年3月期 電子部品関連事業 製品別・市場別 売上高予想

- ◆ 増加基調だった家電・住宅向けACアダプタ・チャージャは、需要一巡により一時的な減速を見込む
- ◆ エネルギー・大型トランスは、欧米中心に好調が継続
- ◆ LEDは、年度を通じて自販機ボタンがコロナ前レベルまで回復



© 2022 TAMURA CORPORATION

※交通・車両の売上高は、2022年3月期以降、収益認識基準の適用により、有償支給材料売上分が除かれています。

20

続いて、電子部品事業の製品別・市場別売上予想をご説明します。

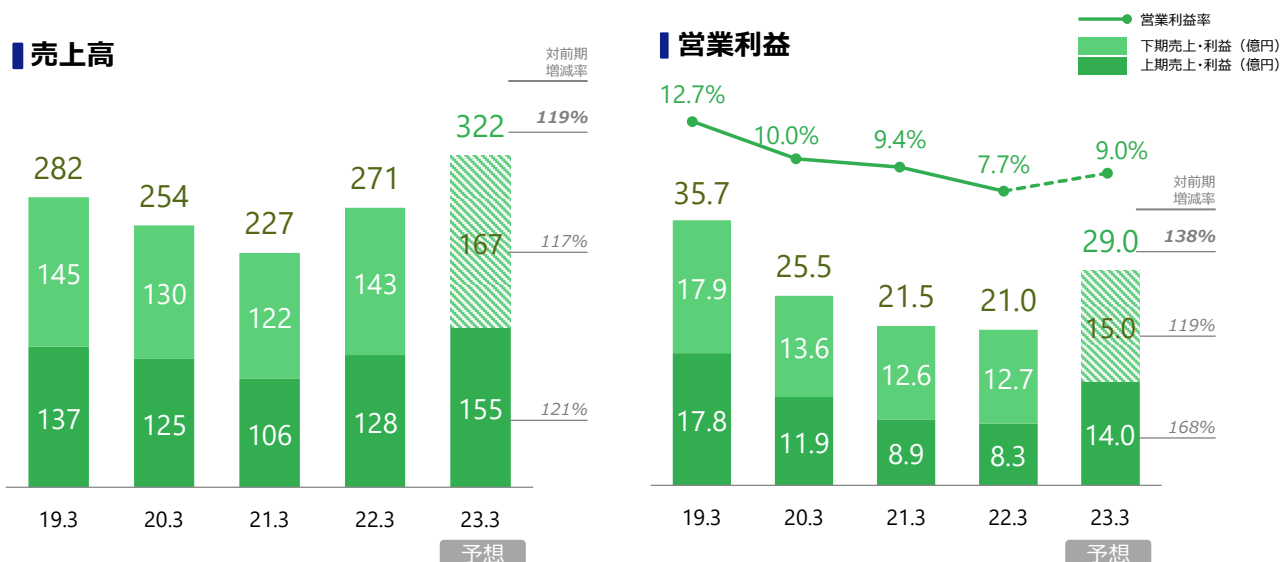
家電・住宅関連向けは増加基調が続いておりましたが、需要が一巡したことで下期は一時的な成長減速が見込まれます。
それにより、ACアダプタ・チャージャは減収を見込んでおります。

一方、エネルギー市場向けの大型トランスは、欧米を中心に旺盛な需要が継続しており、エネルギー市場向けを含め増収を見込んでおります。

LEDは、年間を通じて自販機用ボタンがコロナ前の水準まで回復する見込みです。

2023年3月期 電子化学実装関連事業 通期業績予想

◆ ソルダーペースト主原料の錫の価格下落は、在庫単価への反映までタイムラグがあり、利益回復への寄与はゆるやか



© 2022 TAMURA CORPORATION

21

次に、電子化学実装事業の業績予想をお示します。

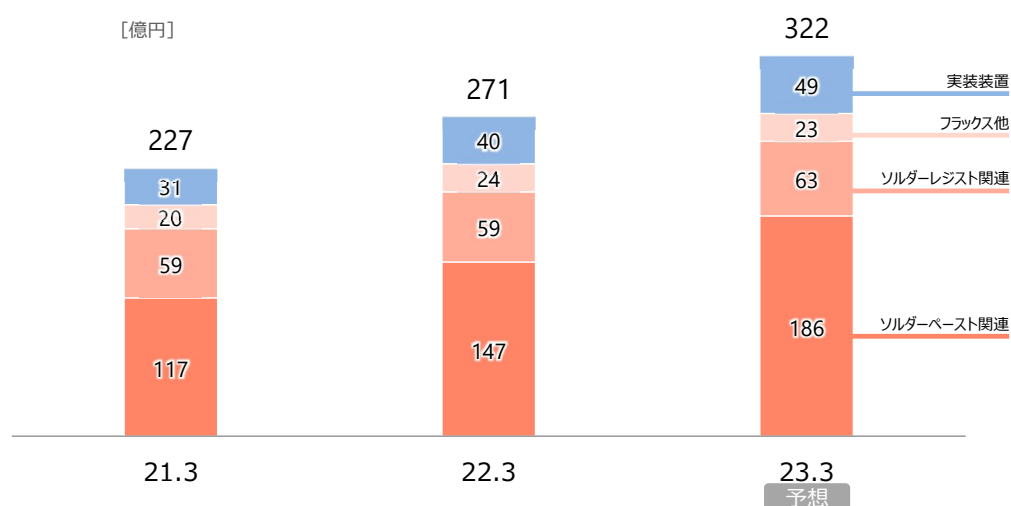
ソルダーペーストの主原料である錫は、足元では価格が下がっているものの、在庫単価に反映されるまでタイムラグがございます。

そのため利益回復への寄与はゆるやかで、下期営業利益は前年同期から2割程度の増加にとどまる見込みです。

その結果、通期営業利益は29億円と見込んでおります。

2023年3月期 電子化学実装事業 製品別売上高予想

- ◆ ソルダーペーストの売上は、価格改定の反映や為替影響もあり大幅増
- ◆ 実装装置は、フルモデルチェンジした新型リフロー装置「TNUシリーズ」の本格的な拡販



© 2022 TAMURA CORPORATION

22

電子化学実装事業の製品別売上予想をご説明します。

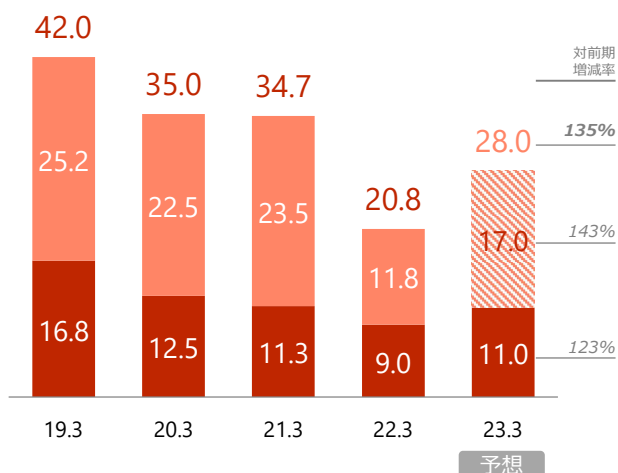
ソルダーペーストは、高騰した錫価格を販売価格に反映していることや、為替影響もあり、大幅増収を見込んでおります。

実装装置は、上期に新型リフロー装置TNUシリーズの販売を開始しました。下期から、本格的なプロモーションを開始し、今後の売上拡大につなげてまいります。詳しくは後ほどご説明いたします。

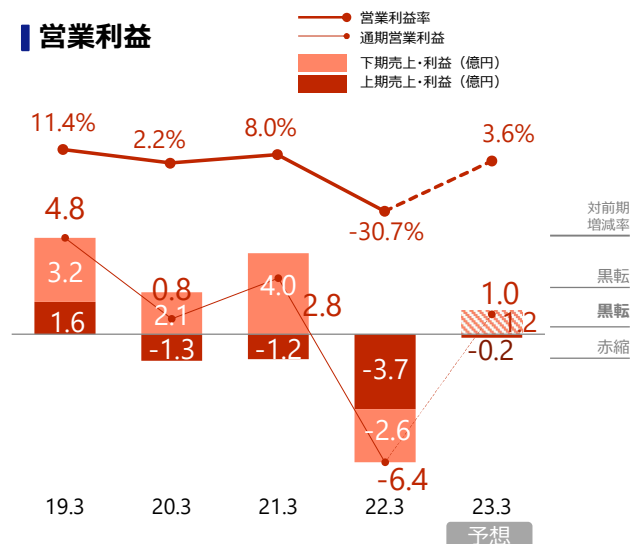
2023年3月期 情報機器関連事業 通期業績予想

- ◆ ネットワーク対応の最新型音声卓「NTXシリーズ」を、本格的に市場投入開始
- ◆ 通信事業者向けの監視装置の更新需要もあり、年間で黒字化を見込む

売上高



営業利益



続いて、情報機器事業の業績予想をお示します。

これまで、フルIP対応の音声卓「NTXシリーズ」の開発を進めて参りましたが、ほぼ完了するにいたりました。

下期は、本格的に市場投入を開始いたします。

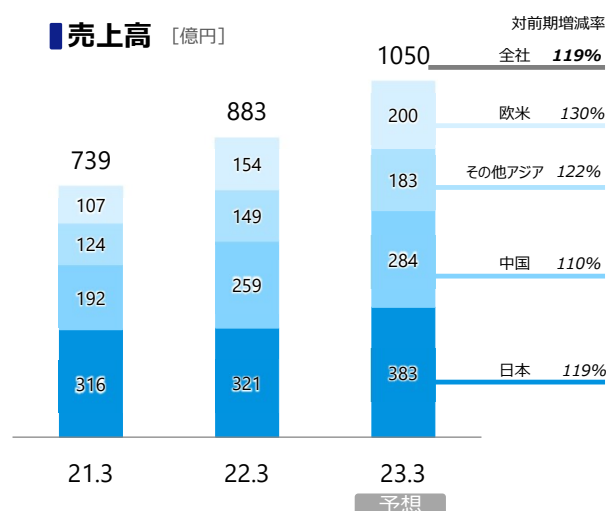
また、通信事業者向け監視装置の更新需要などがあり、下期売上高17.4億円と前年同期より5割近い増収を見込んでおります。

下期営業利益は1.2億円と見込んでおり、年間では黒字転換する見込みです。

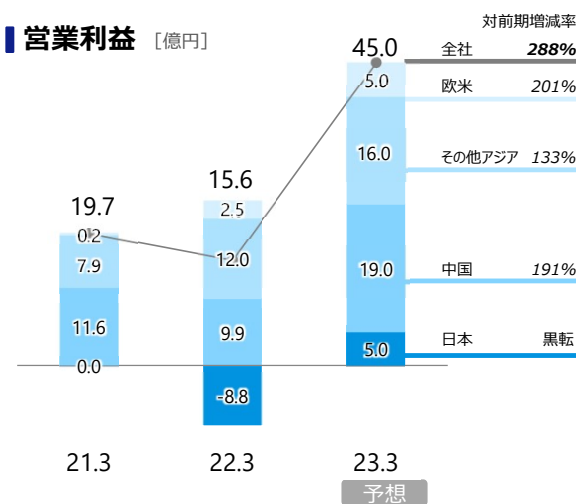
2023年3月期通期 地域別売上高・営業利益予想

- ◆ 日本は、円安寄与や情報機器などの国内向け事業の回復で黒字転換。中国も改善基調明確に
- ◆ 欧米は、米国データセンター向け大型トランスの需要が増加。メキシコ生産の強化を進める

■ 売上高 [億円]



■ 営業利益 [億円]



© 2022 TAMURA CORPORATION

注: 連結消去 (主に全社未来開発費) を日本に含めて表示

24

地域別の通期業績予想をご説明します。

第2四半期に引き続き、全地域で増収および利益改善を見込んでおります。

日本は、輸出品の円安効果や国内事業の回復などにより、通期での黒字転換を見込んでおります。

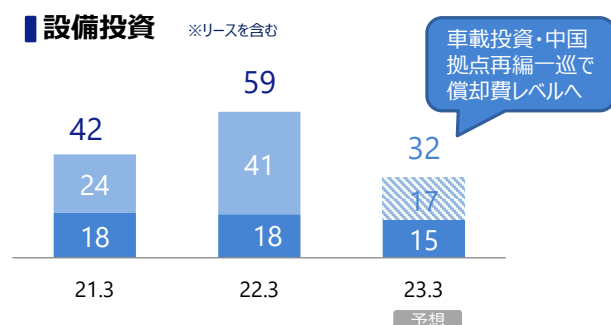
中国は、営業利益が前期の2倍に迫るなど、改善基調が明確化する見込みです。

欧米については、米国における大型トランスの需要増加で大きく増収・増益となる見込みで、メキシコ工場の生産能力の強化を進める予定です。
詳しくは、後ほどご説明いたします。

2023年3月期設備投資・減価償却費・研究開発投資予想

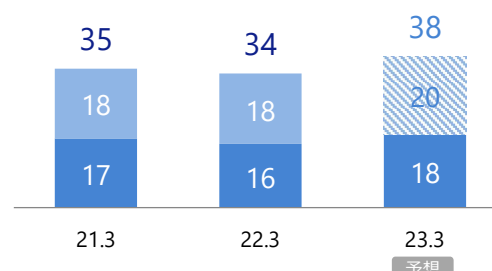
■ 設備投資

※リースを含む

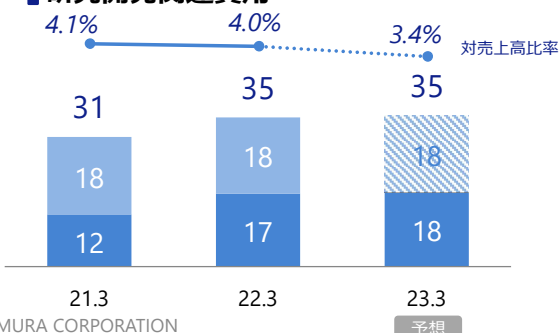


■ 減価償却費

下期 (億円)
上期 (億円)



■ 研究開発関連費用



■ 主な設備投資

- 電子部品: 車載向け生産設備増強
- 全社: 情報システム更新費用

■ 主な開発投資

- 高耐圧・高周波対応ゲートドライバ、EMC性能強化電流センサ
- 高性能絶縁材開発
- 環境貢献型リフロー装置
- 次世代半導体利用高効率電源

注: 「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。

続いて、設備投資・減価償却費・研究開発費についてご説明します。

設備投資では、前期に車載関連事業への投資や、中国拠点生産再編などを完了いたしました。

そのため、今期は32億円と減価償却費の範囲内を想定しています。

一方、減価償却費は38億円と、前期の設備投資により増額を見込んでおります。

研究開発費用は、前年並みとなる見込みです。

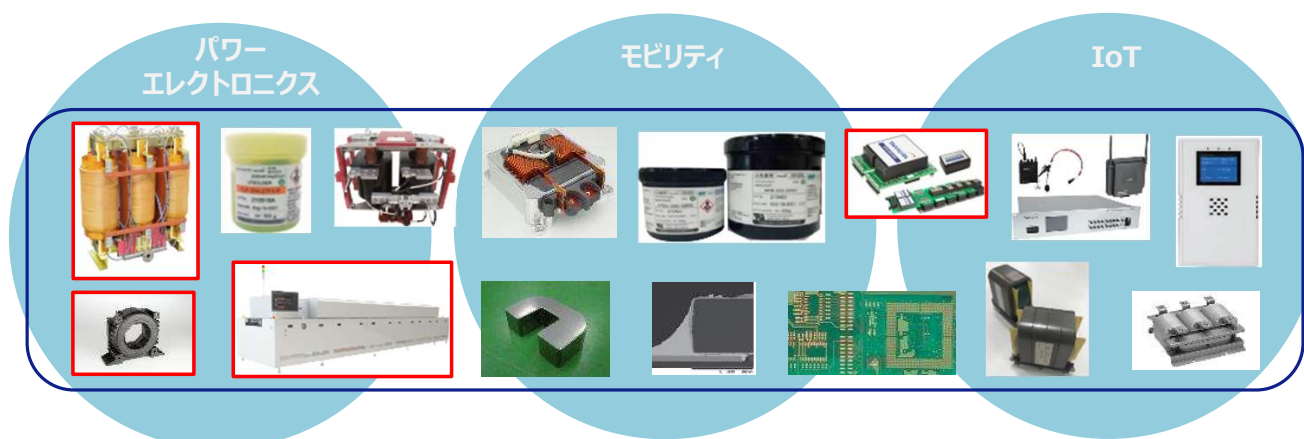
3. 中期経営計画に基づく施策

最後に、今年度よりスタートしました第13次中期経営計画に基づく取り組みをご紹介します。

カーボンニュートラルへの貢献を通じた事業成長

- ◆ カーボンニュートラルで成長する欧米市場を中心に、戦略製品展開の強化で事業成長を目指す
- ◆ パワーエレクトロニクス・モビリティ・IoTの3分野に注力し、事業部横断で新製品・新サービスを展開

カーボンニュートラルに貢献する事業領域



第13次中期経営計画の事業戦略として、当社は「カーボンニュートラルに貢献する事業成長」を掲げております。

カーボンニュートラルで特に成長が期待されるのは欧米市場であると考えており、欧米地域を中心とした「グローバル展開の強化」を目指しております。

新市場の開拓とともに「新製品・新事業の創出」による成長を目指しております。

カーボンニュートラルへの貢献 ～北米市場展開

- ◆ 欧州市場で実績のある大型トランス・リアクタを北米・中南米市場に展開強化中
- ◆ カーボンニュートラル政策の推進で、アメリカ再エネ関連市場からの需要増加。メキシコ工場増設で対応

カーボンニュートラル市場

太陽光発電



風力発電



高圧直流送電 (HVDC)



データセンター (UPS・PDU)



北米・中南米市場展開



- 欧州発技術の大型トランス・リアクタの拡販
 - ・ 大規模風力発電設備
 - ・ 高圧直流送電(HVDC)
 - ・ データセンター
- ゲートドライバモジュール・電力センサとあわせて、顧客ニーズに応える
- メキシコ工場の大型トランス・リアクタ生産能力を1.5倍に増強
 - ・ 2023年立ち上げ予定

© 2022 TAMURA CORPORATION

28

先ず、欧米市場への取り組みをご紹介します。

カーボンニュートラル市場は欧州が先行してきましたが、当社の大型トランス・リアクタは欧州大手企業で採用実績を積み重ねてまいりました。また当社は、大型トランス・リアクタを世界8カ所で生産できる体制を整えております。

これまでの採用実績や生産体制が評価され、カーボンニュートラル政策を推進するアメリカにおいても、大規模風力発電設備、データセンター関連市場などから需要が増えてきています。

アメリカ向けの大型トランス・リアクタはメキシコ工場で生産しております。受注数量が増加傾向にあるため、今後メキシコ工場の生産能力を約1.5倍に増強する予定です。

将来的には、大型トランス・リアクタだけでなく、ゲートドライバモジュールや電流センサなどの周辺部品と一体での提案を行い、顧客のニーズに応えてまいります。

カーボンニュートラルへの貢献 ～リフロー装置のグローバル展開

- ◆ 非日系顧客のニーズに応えるべくフルモデルチェンジした、新型リフローはんだ付け装置の販売を開始
- ◆ 工場の自動化、省エネ化、生産効率向上に貢献し、カーボンニュートラルの実現に寄与

リフロー装置 新製品「TNU」



- 非日系顧客ニーズに応えるフレキシブルな機能設計
- 顧客の生産効率向上・省エネ貢献：機種切替時の温度変更時間が当社従来品比1/3
⇒待ち時間削減により工場全体の省エネに貢献
- IoT(BIG DATA)を活用した設備管理

グローバル展開推進



- グループネットワークを活かし、中国・ASEAN地域の顧客など各国に製品を展開
- 電子化学材料とともにメキシコショールームにデモ機を設置。欧米顧客の攻略につなげる

続いて、リフロー装置のグローバル展開についてご紹介します。

従来機種からフルモデルチェンジした新型リフローはんだ付け装置を開発し、上期に販売を開始しました。

ベース機能のほかはオプション対応とすることを可能にしたため、機能面およびコスト面で顧客ニーズに柔軟に対応できるようになりました。
また、顧客の温度変更時間を当社従来品の3分の1に削減しており、お客様の生産効率および工場全体の省エネに貢献できると考えています。

当社のグローバルネットワークを活かしてプロモーションを行い、中国やアセアン地域の顧客をはじめとして、グローバルに展開してまいります。

また、顧客の更なる省エネニーズに応えるべく、より一層の省エネ効果が期待できるモデルを、短い期間で上梓してまいりたいと考えております。

サステナビリティ戦略の推進

- ◆ マテリアリティを軸にサステナビリティ戦略を展開。働きがい改革で「人が憧れる会社」「人が集まる会社」を目指す
- ◆ カーボンニュートラルへの貢献に向け、22年上期はCO₂排出量の大幅削減やTCFDに基づく情報開示を実施

人材：働きがい改革推進

心理的安全性への取り組み

2019年より心理的安全性づくりの取り組み開始
「耳で聞き、頭でわかって、腹に落ち、そして体が動く」という行動変容を目指し、研修や定期サーベイの実施など種々の施策を組み立て

「人が憧れる会社」「人が集まる会社」を目指す



「心理的安全性AWARD2022」
ゴールドリング受賞
(主催：株式会社ZENTech)

脱炭素社会実現への貢献

- 国内主要5事業所で、非化石証書の活用により実質再生可能エネルギー由来の電力に切り替え。年間約8,000tのCO₂削減見込み



- 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明。TCFDに基づく情報開示を開始

最後に、サステナビリティ戦略の推進状況をご紹介します。

当社は、2021年5月に設定したマテリアリティを軸にサステナビリティ戦略を展開しております。

その中でも人材戦略とカーボンニュートラル戦略を重要と考えております。

人材戦略については、「人が憧れる会社」「人が集まる会社」を目指して「働きがい改革」を推進しており、特に、心理的安全性への取り組みを進めています。

また、カーボンニュートラルへの貢献として、国内主要5事業所の電力契約切り替えにより年間約8,000tのCO₂削減につなげました。

6月には、気候関連財務情報開示タスクフォースいわゆるTCFD提言への賛同を表明しまして、TCFDに基づく情報開示を開始いたしました。

4. まとめ

まとめ

2023年3月期 第2四半期決算概要

- 主要顧客の堅調な需要、製品価格改定努力、生産効率改善などにより増収・増益
- 一部事業で上海ロックダウンの影響を受けたものの、全体では前期比増収増益基調を継続
- 第13次中期経営計画初年度として順調な滑り出し

2023年3月期 通期業績予想

- 電子部品および電子化学実装は増収・増益基調を継続。情報機器は黒字転換予想
- ただし、事業環境の不透明等を踏まえ、2022年9月26日に公表した最新業績予想を維持
- 製品価格改定の浸透や生産改善の継続、新製品の拡販などにより計画達成を目指す

中期経営計画に基づく施策

- カーボンニュートラルで成長する欧米市場を中心に、戦略製品展開を強化で事業成長を目指す
- マテリアリティを軸にサステナビリティ戦略を展開

スライド32は、本日のまとめとなります。

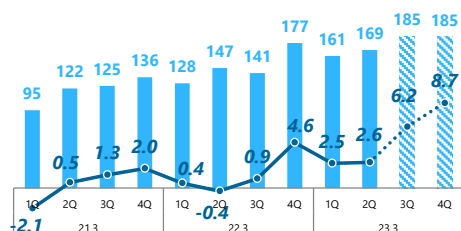
本日も説明する内容は以上でございます。

ご清聴いただき、まことにありがとうございました。

【付録】 参考資料

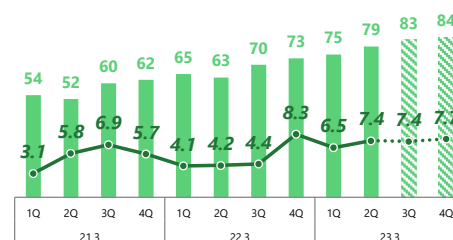
2023年3月期 事業部門別 売上高・利益予想（四半期推移）

電子部品

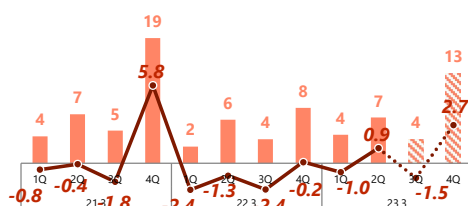


電子化学実装

売上高(億円) 営業利益(億円)

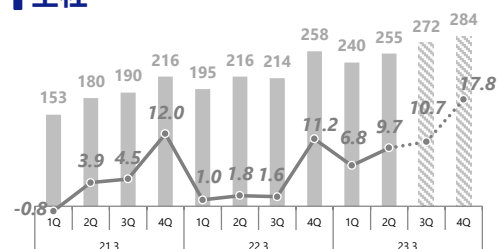


情報機器



注：放送機器の売上は期末（2Q・4Q）に集中する傾向あり

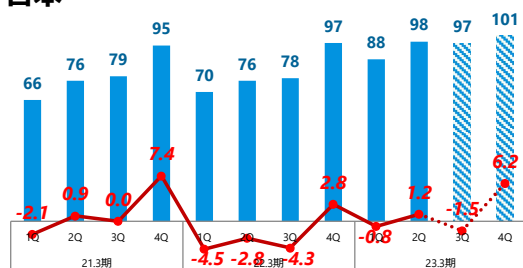
全社



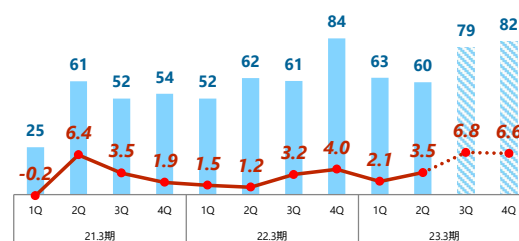
2023年3月期 地域別 売上高・利益予想（四半期推移）

売上高(億円) 営業利益(億円)

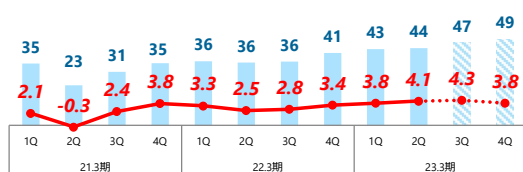
日本



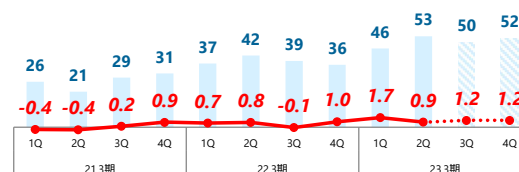
中国



その他アジア



欧米



次世代音声調整卓 NTXシリーズのご紹介

NTX
series

□ Inter BEE 2022（国際放送機器展）に出展いたします。

Broadmedia & Entertainment

Inter BEE 2022

2022年

11月16日(水)～18日(金)

ホール5

Booth No.4105

□ フルIP対応音声調整卓

- 各装置レイアウトフリー
- リモートプロダクション
- リモートメンテナンス

□ 最新IPインターフェイス対応

- SMPTE ST2110
- AMWA
- NMOS

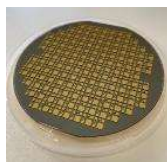
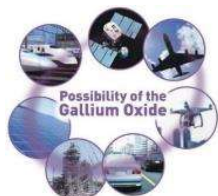
□ サーフェイスサイズ

- NTX800
- NTX600
- NTX300

カーボンニュートラルへの貢献 ～酸化ガリウムパワー半導体の研究開発

- ◆ タムラ製作所の研究開発部門が独立して設立された株式会社ノベルベルクリスタルテクノロジー（NCT）は、カーボンニュートラルへの貢献が期待される酸化ガリウムパワー半導体の研究開発を推進しています
- ◆ タムラは、NCTと接合材料や電源機器などの共同開発を進め、中長期的視点で共に成長を目指しています

酸化ガリウムパワー半導体 研究開発



タムラとNCTの取り組み

TAMURA

- 特許技術供与
- 技術支援・販売支援
- 周辺製品・材料のコラボレーション



Novel Crystal Technology, Inc.

- 酸化ガリウム基板
およびパワーデバイスの
製品化・製造販売

- 酸化ガリウム：SiCやGaNを越える高性能とコスト競争力が期待されているパワー半導体
- 研究開発チーム：NCT、タムラ製作所、情報通信研究機構、東京農工大学を中心とするチームで世界をリード
- NCT：タムラ製作所の持分法非適用関連会社（出資比率は約40%）。外部資本を積極的に取り込み、独立した経営陣でスピーディーな開発と事業化推進を行うため2015年に設立

[NCTによる最近の研究開発成果]

- 2022年 9月：世界初、酸化ガリウム反転型DI-MOSTランジスタを試作
- 2022年 3月：キラー欠陥を従来の10分の1に低減した 第3世代酸化ガリウム100mmエピウエハの開発に成功
- 2022年 3月：世界初、HVPE法で6インチウエハ上への酸化ガリウム成膜に成功

会社概要

本社：東京都練馬区
資本金：11,829百万円
連結従業員数：4,405名
連結売上高：88,328百万円
東証プライム市場上場
代表取締役社長：浅田昌弘



日本
・売上高：32,117百万円
・従業員数：1,188名

中国
・売上高：25,874百万円
・従業員数：1,759名

その他アジア
・売上高：14,943百万円
・従業員数：1,084名

欧米
・売上高：15,393百万円
・従業員数：374名

あなたの街のタムラ

航空・宇宙で
新たな機材からロケット・人工衛星まで、究極の性能を必要とする社会に貢献しています。
トランス・リアクタ

灯台で
新たな機材で、高い信頼性が求められる灯台の光源を確保する。高効率化のLED光源を採用し、メンテナンス性を向上させます。
ハイクラスLED

電力・太陽光発電・インフラで
再生可能エネルギーの発電や輸送システムの効率化などに貢献する製品・材料です。
太陽トランス・リアクタ

工場で
コンピュータや工作機械の部品、プリント基板の製造に欠かせない部品が搭載されています。
電圧センサー、データロギングモジュール、温度センサー、データロギングモジュール、電圧センサー、データロギングモジュール、電圧センサー、データロギングモジュール

駅で
駅構内や駅周辺の情報伝達手段として、音声・表示で案内を行います。
LED表示装置、駅内案内システム

コンビニや店舗で
店舗サインやショーケースなど、施工性に優れたLED照明です。
店舗用LED照明、ショーケース用LED照明

通信基地局で
通信基地局の増設に欠かせない材料として、デジタル通信システムを支えています。
デジタル・リアクタ、デジタル・リアクタ

放送局で
放送局に欠かせない音声・映像の収録・再生・編集の基盤システムです。
放送用LED照明、放送用LED照明

街の自動販売機で
表示や熱伝導だけでなく、スマートフォンとの連携にも貢献しています。
自動販売機用LED照明、自動販売機用LED照明

エコカーで
高効率・高信頼性の部品・材料で、エコカーの安全・安心・安全を確保します。
エコカー用LED照明、エコカー用LED照明

スマートフォンやタブレットPCで
多機能化・小型化する電子機器の基盤を支える材料です。
スマートフォン用LED照明、タブレットPC用LED照明

当社からのお願い

本資料の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所
コーポレートコミュニケーション統括部 広報・IRグループ